

# 高知県長期漁海況予報

## 平成19年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成19年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成19年1月から6月を予測期間とした「平成18年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。国、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況

黒潮：九州南東沖の小蛇行は、12月から1月に四国沖を通過する。

室戸岬沖から潮岬沖では、1月から2月に離岸傾向が強まる。

沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

#### 漁況

マイワシ： 前年並から上回る

ウルメイワシ： 前年を下回るが高水準

シラス： 前年を上回る

マアジ： 前年並から下回る

サバ類： 前年を下回る

\* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

## 海 況

### 【海況の経過（平成18年8月～12月）】

#### 1. 黒潮

高知県沖の黒潮は、8月は足摺岬沖で「かなり離岸」の後「接岸」、室戸岬南沖で「やや離岸」の後「接岸」となりました。9月は両岬沖でおおむね「接岸」の後「やや離岸」で推移しました。10月は両岬沖で「やや離岸」の後「接岸」となりました。11月は足摺岬沖で「接岸」の後「やや離岸」、室戸岬沖は「やや離岸」で推移しました。12月は両岬沖とも「やや離岸」の後「接岸」で推移しています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	< 25
やや離岸	25 、 < 45
かなり離岸	45 、 < 65
著しく離岸	65

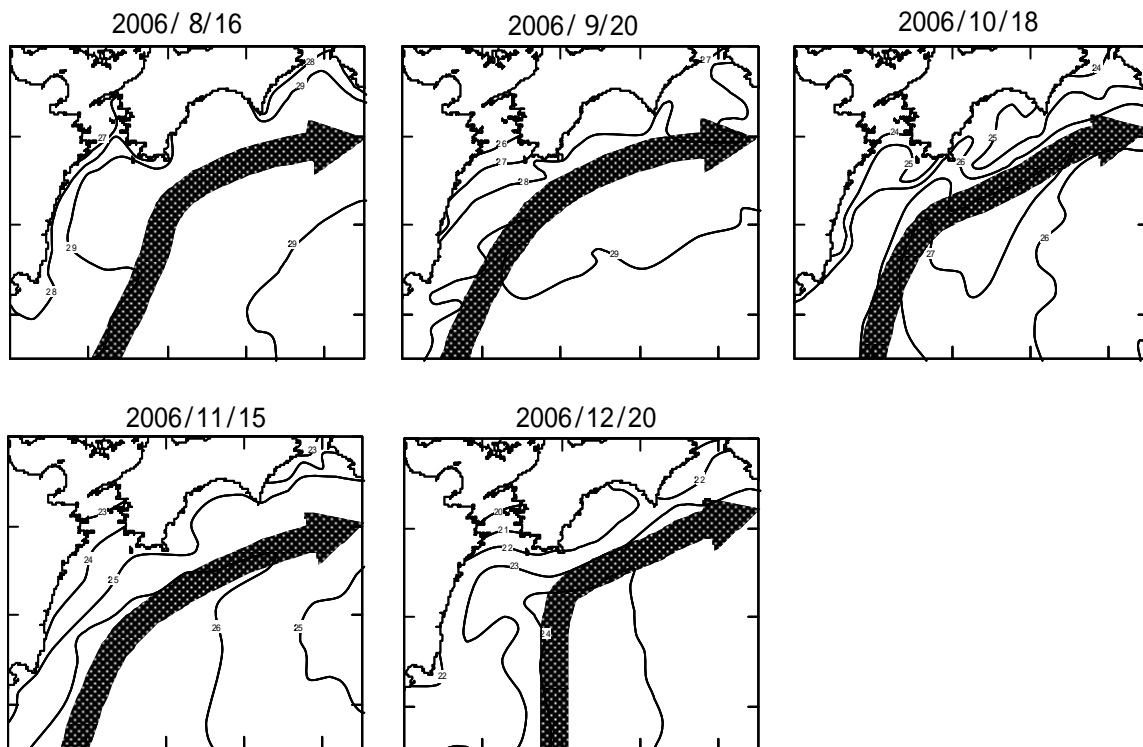


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

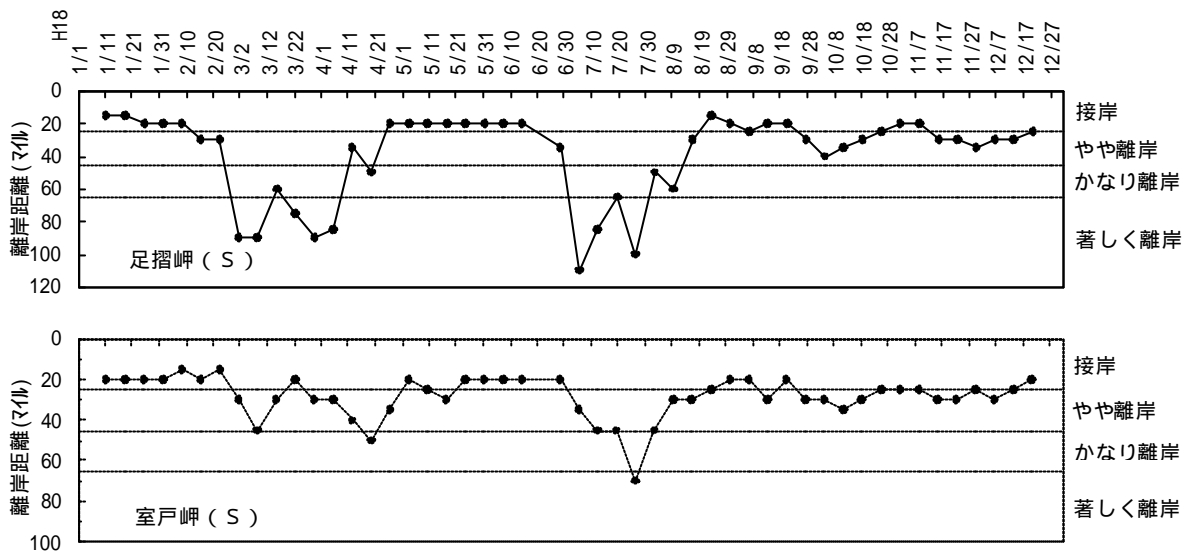


図2 足摺岬および室戸岬からの黒潮流軸離岸距離 (高知県漁海況速報より)

## 2. 沿岸水温

全般に「やや高め」から「著しく高め」で推移しました。月別にみると、8月は全層で「やや高め」でした。9月以降は、11月、12月の200mで「かなり低め」であった他は、「やや高め」から「著しく高め」で推移しました。

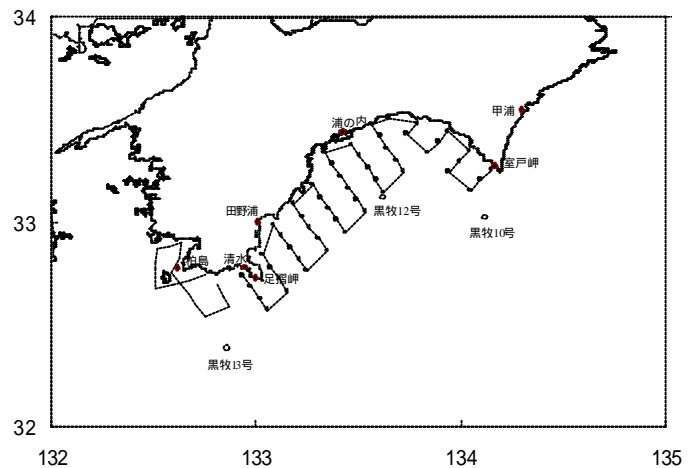


表2 土佐湾平均水温の年間偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成18年8月	+	+	+	+
平成18年9月	+	++	++	+
平成18年10月	+	++	+++	++
平成18年11月	++	++	+++	--
平成18年12月	+	+	++	--

表3 土佐湾水温年間偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+ -	平年並み (+ 基調)	0.0~0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
- +	平年並み (- 基調)	0.0~-0.6

### 3. 特異現象

#### 海況

- ・沿岸定線観測で、10月の50、100mは過去3番目の高水温となりました（1975年以降、欠測年有り）。
- ・沿岸定線観測で、11月の0、50、100mは過去最高水温、200mは過去2番目の低水温を記録しました（1975年以降）。

#### 漁況

- ・10、11月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁でした。10月は平年比1033%、11月は平年比583%に達しました。
- ・10月以降、県西部の定置網でブリ当才魚（ヤズ）が不漁でした。
- ・11月、土佐湾中央部の多鈎釣でウルメイワシが不漁でした（11月平年比2%）。
- ・11月、県西部の曳き縄でマルソウダが不漁でした（11月平年比26%）。

#### 【今後の見通し（平成19年1～6月）】

##### 1. 黒潮

流型：12月現在、N型（直進型）の黒潮は、2月に一時的にB型傾向、3月から4月にC型傾向、5月から6月にD型傾向の流路パターンになる見込みです。

四国沖の黒潮：12月中旬現在、九州東方沖に存在する規模の大きい小蛇行が12月から1月に四国沖を東進する見込みです。

室戸岬沖から潮岬沖では1月から2月に離岸傾向が強まると予想されます。

##### （根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

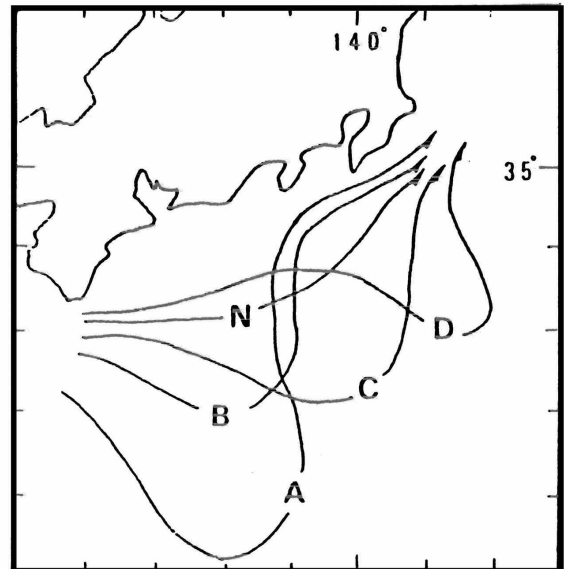


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

##### 2. 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

##### （根拠）

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（11月22日発表、予報期間12～2月）によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

## 漁 況

### Ⅰ サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過(平成18年7月～11月)】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1227.3トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年(1969.7トン)を下回り、平年(1054.4トン 以下、平年とは平成7年から平成16年の10年間の平均値を示します)を上回りました。

まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種としてはゴマサバが主体でした。7月中旬には2才魚(平成16年生まれ)が漁獲の主体でしたが、7月下旬には1才魚(平成17年生まれ)も混獲され、8月以降は1才魚が主体を占めていました。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は143.6トンで、前年(213.0トン)、平年(203.1トン)を下回りました。

漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。西部海域(足摺岬周辺海域)では7月中旬までは2才魚(平成16年生まれ)が漁獲されましたが、下旬には1才魚(平成17年生まれ)が漁獲されました。東部(室戸岬周辺海域)では、0才魚(平成18年生まれ)や1才魚(平成17年生まれ)は漁獲されず、2才魚(平成16年生まれ)以上が漁獲されました。マサバは依然として散発的に漁獲される程度で、混獲率は2.0%以下の低水準でした。

(3)釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は529トンで、前年(678トン)、平年(676トン)を下回りました。

魚種はゴマサバで、西部海域の立縄漁法による漁獲の主体は、例年同様3才魚(平成15年生まれ)以上が占めていましたが、10月以降には2才魚(平成16年生まれ)の漁獲が認められました。中、東部海域では、期間中3才魚以上の大型魚は少なく、2才魚の占める割合が前年並びに平年の割合を上回りました。

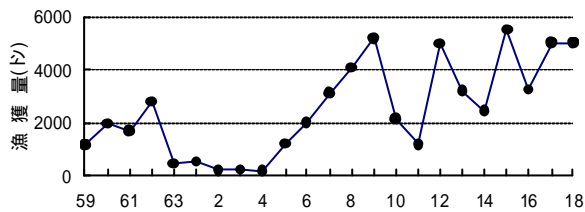


図 サバ類漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

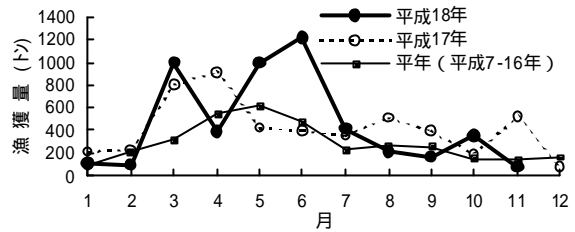


図 サバ類月別漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

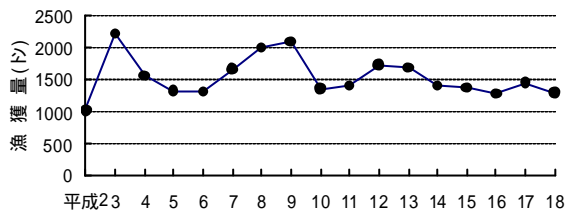


図 サバ類漁獲量の推移 (清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り)

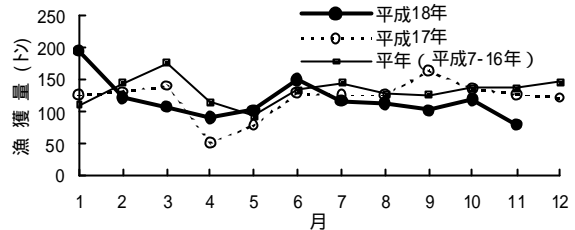


図 サバ類月別漁獲量の推移 (清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り)

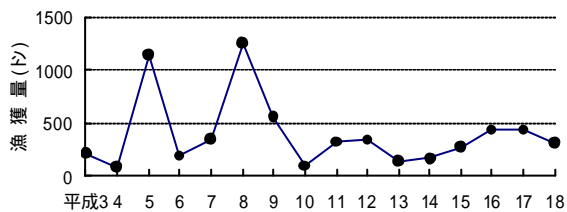


図 サバ類漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

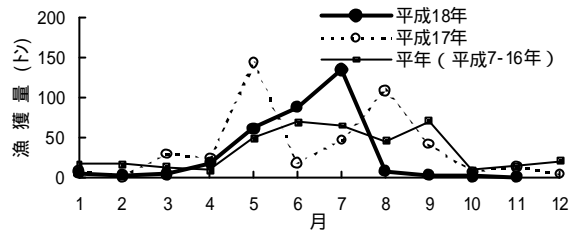


図 サバ類月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に4,194トンで、前年比42%、平年比131%（平成13年～平成17年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では南部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は1,224トンで前年比35%、平年比61%（昭和61年から平成17年の平均値）でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,799トンで、前年比109%、平年比59%（平成元年～平成17年の平均値）でした。熊野灘南部定置網の7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に34トンで、前年比46%、平年比61%（平成5年～平成17年の平均値）でした。

### 【漁況予測（平成19年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：3才魚（平成16年生まれ）、2才魚（平成17年生まれ）。期の後半に1才魚（平成18年生まれ）。
- (2) 来遊水準：
  - ・ゴマサバ：本県への来遊は3才魚は前年を上回るものの、全体としては前年を下回るものと予想されます。
  - ・マサバ：来遊は依然、低水準と予想されます。

説明：

ゴマサバ：資源水準の高い3才魚（平成16年生まれ）の残存資源量は依然、多いと推定されていますが、2才魚（平成17年生まれ）および1才魚（平成18年生まれ）の資源水準は、3才魚に比べ大幅に低いと推定されており、本県への来遊は全体としては少ないものと考えられます。

マサバ：ゴマサバ同様、2才魚、1才魚とも資源水準は低いと推定されており、来遊は依然、低水準と予想されます。

## II マアジ

### 【漁況経過（平成18年7月～11月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は534.2トンで、前年（535.8トン）並みで平年（846.8トン）を下回りました。銘柄別では、150g以上の「アジ」が310.3トンで、前年（228.1トン）および平年（259.9トン）を上回りました。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は223.9トンで、前年（307.7トン）および平年（586.9トン）を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、7～8月は尾叉長18～22cmの1才魚（平成17年生まれ）以上が主体であり、9月以降は尾叉長14cm台の0才魚（平成18年生まれ）も漁獲されたと考えられます。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は47.1トンで、前年（74.8トン）および平年（145.1トン）を下回りました。定置網入網調査と魚体測定結果から、7月は尾叉長18cm台の1才魚主体、8月以降はFL12～14cm台の0才魚主体であったと考えられます。

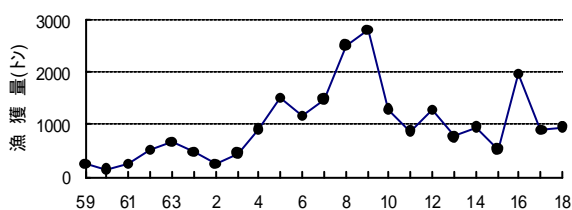


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

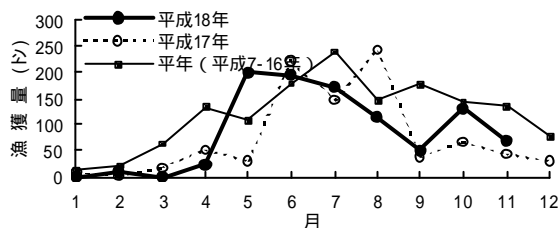


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

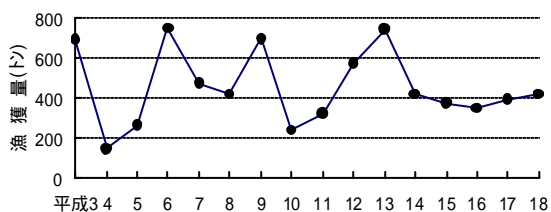


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

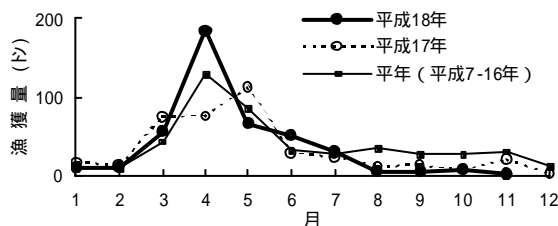


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の3港)による7～11月の総漁獲量は867トンで、前年比40%、  
平年比26%(平成13年～平成17年の平均値)でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、総漁獲量は1,839トンで、前年比48%、  
平年比78%(昭和61年～平成17年の平均値)でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による漁獲量は、1,498トンで、前年比182%、平年比121%  
(平成元年～平成17年の平均値)でした。

### 【漁況予測(平成19年1～6月)】

(1)漁獲対象：0才魚(平成19年生まれ)、1才魚(平成18年生まれ)主体。

(2)来遊水準：

- ・宿毛湾周辺海域、土佐湾以東ともに前年並みから前年を下回ると考えられます。

説明：

宿毛湾周辺海域では、平成18年下半期のゼンゴが低調であったことから、主体となる1才魚(平成18年生まれ)の水準は低いと推定され、前年並から前年を下回る来遊量と考えられます。

土佐湾以東の海域では0才魚(平成19年生まれ)、1才魚(平成18年生まれ)主体に来遊します。0才魚(平成19年生まれ)は期の後半に来遊すると考えられますが、水準は不明です。1才魚(平成18年生まれ)の来遊水準は低いと考えられることから、当海域への来遊は前年を下回ると推定されます。全体では前年並から前年を下回ると考えられます。

## III マイワシ

### 【漁況経過(平成18年7月～11月)】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は703.2トンで、前年(161.0トン)および平年(230.5トン)を大きく上回りました。特に10月には、上旬を中心として7日間で546トンもの漁獲がみられました。魚体測定結果から、10、11月は尾叉長18cm前後の1才魚(平成17年生まれ)主体に、15cm前後の0才魚(平成18年生まれ)も混獲されたと考えられます。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は12.3トンで、前年(42.9トン)および平年(51.7トン)を下回りました。魚体測定結果から、0才魚(平成18年生まれ)主体



に漁獲されたと考えられます。

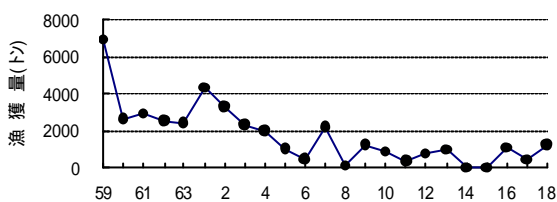


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

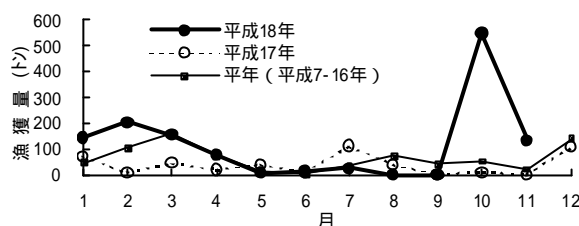


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

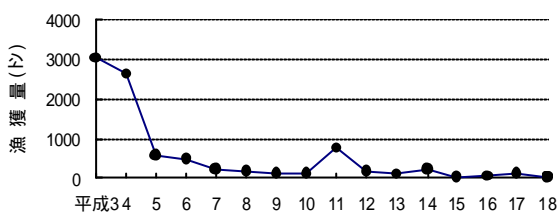


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

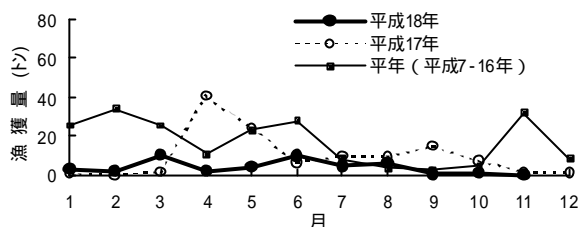


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）の7月から11月における総漁獲量は1,463トンで、前年比543%、平年比948%（平成13年～平成17年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、総漁獲量は69トンで、前年比17%、平年比9%（昭和61年～平成17年の平均値）でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網による7月から11月の総漁獲量は234トンで、前年比39%、平年比82%（平成6年～平成17年までの平均値）でした。

### 【漁況予測（平成19年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成19年生まれ）1才魚（平成18年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：宿毛湾では、好漁の前年並みか上回ると考えられます。

土佐湾以東の海域では、低調であった前年を上回ると考えられます。

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。しかし、平成18年下半期には宿毛湾で近年にない好漁となり、宮崎県と三重県でも散発的ながら近年にない好漁がみられました。平成19年上半期は、引き続いて好漁となることが予想されます。

## IV カタクチイワシ

### 【漁況経過（平成18年7月～11月）】

## 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 76.6 トンで、前年 (688.5 トン) および平年 (164.5 トン) を大きく下回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」が 38.7 トンで、前年 (283.2 トン) を大きく下回り、平年 (38.5 トン) 並みでした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は 37.9 トンで、前年 (405.3 トン) および平年 (126.0 トン) を大きく下回りました。
- (2) 定置網 (窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計) による漁獲は 10.3 トンで、前年 (7.2 トン) および平年 (8.1 トン) を上回りました。

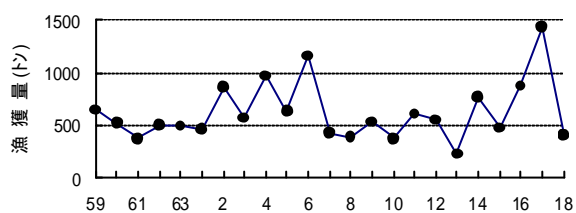


図 かけ网的漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

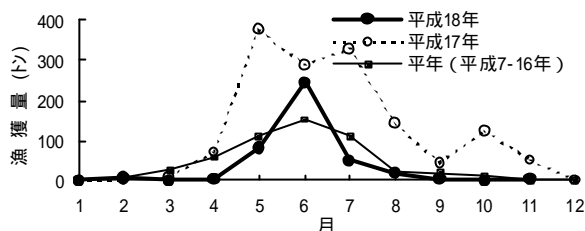


図 かけ网的月別漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

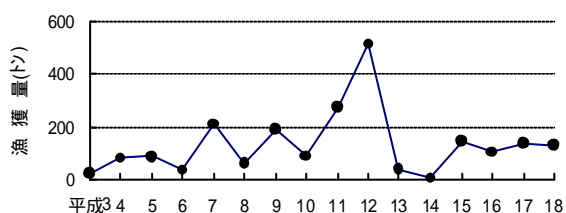


図 かけ网的漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

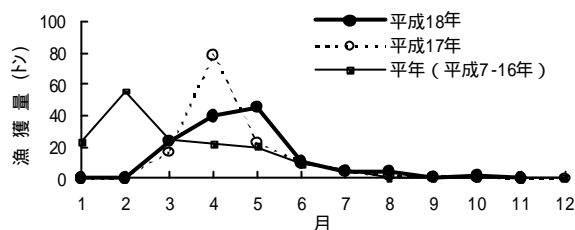


図 かけ网的月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網 (北浦、島浦、青島の 3 港) による 7 ~ 11 月の総漁獲量は 1,227 トンで、前年比 130%、平年比 78% (平成 13 年 ~ 平成 17 年の平均値) でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、総漁獲量は 1,087 トンで前年比 34%、平年比 53% (昭和 61 年 ~ 平成 17 年の平均値) でした。

和歌山県：成魚は主な漁獲対象種ではないため、漁獲動向から漁況を判断できません。

## V ウルメイワシ

【漁況経過 (平成 18 年 7 月 ~ 11 月)】

### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1021.1 トンで、好漁の前年 (1570.3 トン) を下回りま

したが、平年(492.5トン)を大きく上回りました。前年同様、7月と10月が好漁となりました。魚体測定結果から、7月は体長20cm前後の1才魚(平成17年生まれ)主体に414.1トン、10月は体長15~17cmの0才魚(平成18年生まれ)主体に341.0トン漁獲されたと考えられます。

(2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は44.5トンで、前年(138.4トン)および平年(77.7トン)を下回りました。魚体測定結果から、県下定置網では0才魚(平成18年生まれ)が主体に漁獲されたと考えられます。

(3) 宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は5.1トンで、前年(36.1トン)および平年(17.2トン)を下回りました。

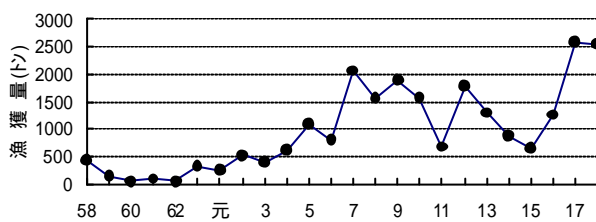


図 カレイの漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

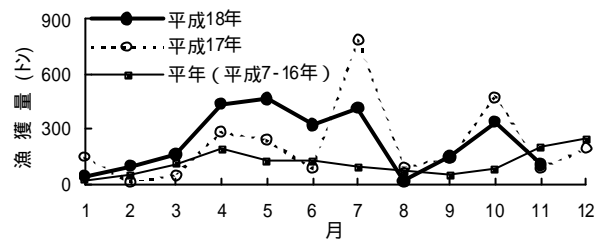


図 カレイの月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

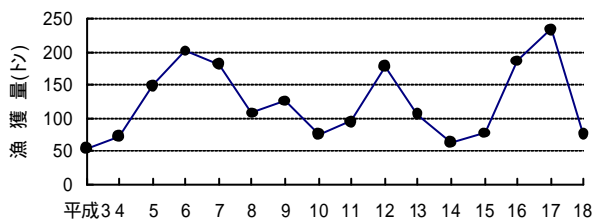


図 カレイの漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

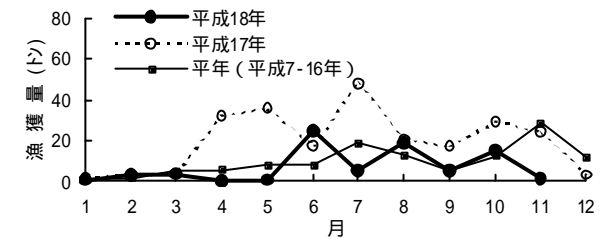


図 カレイの月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

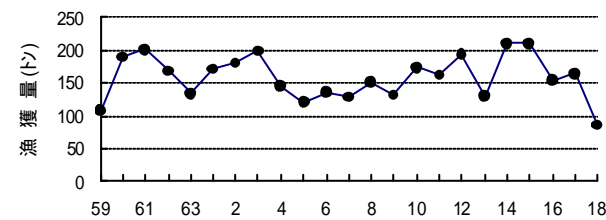


図 カレイの漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鈎釣)

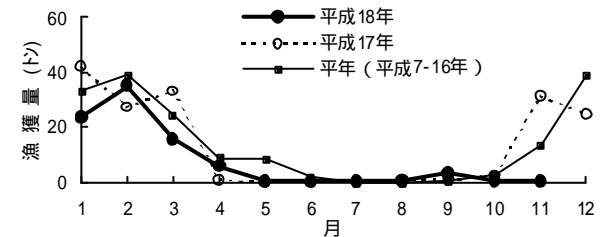


図 カレイの月別漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鈎釣)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県:まき網(北浦、島浦、青島の3港)による7~11月の総漁獲量は5,301トンで、前年同期比134%、平年比166%(平成13年~平成17年の平均値)でした。

愛媛県:豊後水道は南部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は1,027トンで、前年比41%、平年比166%(昭和61年~平成17年の平均値)でした。

和歌山県:串本・南部町漁協の1そうまき網では、総漁獲量が173トンで前年比39%、平年比116%

(平成6年から平成17年の平均値)でした。

【漁況予測(平成19年1~6月)】

(1)漁獲対象:0才魚(平成19年生まれ) 1才魚(平成18年生まれ)

(2)来遊水準:

宿毛湾では、近年における本県の漁況経過および魚体測定結果から勘案すると、平成19年上期は1才魚(平成18年生まれ)主体に高水準の来遊が期待できます。しかし、昭和58年以降で最も高水準であった前年は下回ると考えられます。

土佐湾以東の海域では、1才魚(平成18年生まれ)主体に、4月以降は0才魚(平成19年生まれ)も漁獲の主体となると考えられます。

説明:

宿毛湾

1)平成18年下半期は、10月に15~17cmの0才魚(平成18年生まれ)が主体に300トンを超える漁がみられました。平成19年上半期は、これら0才魚(平成18年生まれ)が20cm前後の1才魚となって漁獲されることが予想されます。平成19年上半期は1才魚(平成18年生まれ)主体に高水準の来遊が期待されます。

1)過去の漁獲量データによると、宿毛湾におけるウルメイワシ上半期漁獲量は前年下半期漁獲量と関係がみられます(前年下半期の漁獲量が多いと、上半期の漁獲量も多い)。平成18年下半期漁獲量は1,000トンを超える好漁であったことから、平成19年上半期は好漁が期待されます。

土佐湾以東の海域

1)1才魚(平成18年生まれ)の資源水準は高いことから、低調であった前年を上回る来遊が期待されます。

## VI シラス

【漁況経過(平成18年7月~11月)】

1 高知県

機船船曳網(安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計)による漁獲量は131.9トンで、前年(134.0トン)及び平年(139.9トン)並でした。

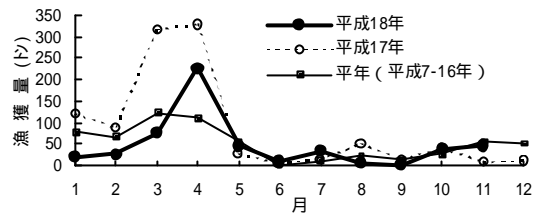
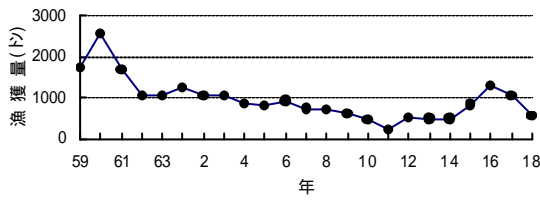


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地） 図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：7～10月の総漁獲量（県内8漁協）は1,433トンで、前年比74%、平年比（平成13年～平成17年の平均値）110%でした。

大分県：佐伯湾における7～11月の漁獲量は85.9トンで、前年比113%、平年比（平成3年～平成16年の平均値）51%でした。

徳島県：紀伊水道内における7～11月の漁獲量は608トンで、前年並みで平年（平成2年～平成17年の平均値）を下回りました。

### 【漁況予測（平成19年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成19年生まれ）

(2) 来遊水準：親魚の来遊水準および平成19年上半期における海況予想から考えると、低調であった前年を上回ると考えられます。

説明：

親魚の来遊水準から（現時点では産卵量は不明）

平成18年下半期におけるウルメイワシ親魚の資源量および来遊量は高水準で、平成19年上半期も高水準で推移することが予想されます。マイワシ親魚においては、資源量は依然低水準で推移しているものの、平成18年下半期は宿毛湾をはじめとする西日本で好漁がみられ、平成19年上半期も前年並の好漁が予想されます。

海況

平成18年上半期（特に1月から3月）の不漁は、黒潮が四国沖を接岸基調で推移したことが原因の一つと考えられます。しかし、平成19年上半期は四国沖を小蛇行が東進し、1月から2月には室戸岬で離岸傾向が強まることが予想されます。このことから、平成19年上半期におけるシラス漁況にとっての海況条件は、18年上半期より良いと考えられます。